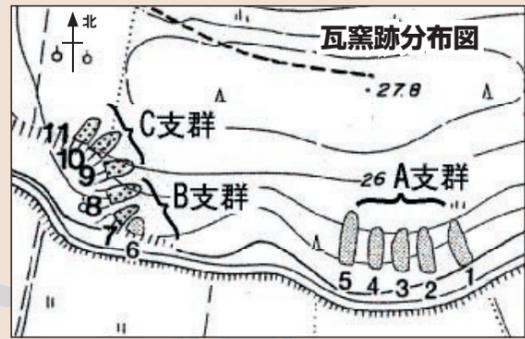


常陸国分寺に瓦を供給したことがわかりました。

調査された瓦窯跡は、斜面をトンネル状に掘りぬいて造られた地下式登窯構造と判断されました。瓦窯を構造的に大別すると、窯体（瓦を焼いた場所）と、その前面に位置する前庭部（作業空間）に分けることができます。この時の調査では、一〇五号窯跡の前庭部を中心に調査を行ない、最大のもので幅5m、深さ2mの長方形に掘り下げられていたことがわかりました。

出土した瓦は、素縁復弁十葉花文鏡瓦・均整唐草文字瓦・男瓦・女瓦で、供給先の常陸国分寺の創建を考える上で重要なものです。また、瓦は同一の文様を用いており、一〇五号窯は比較的短期間の中で繰り返し操業されたと推測されます。



▲現在水田（IIマーク）になっている場所に、以前は恋瀬川へ注ぎ込む小河川が流れており、それを利用して瓦が運搬されたと考えられる。



# まつやまかわらかまあと 松山瓦窯跡【発掘調査報告】よみがえる古代瓦職人の世界

## 県内初 11基の古代瓦窯跡

### 今回の発掘調査の成果

- 1 県下最大規模の十一基の古代瓦窯を確認**  
平成十八年度の調査では、新たに窯跡四基を確認。平成十三、十四年の一〇七号窯と合わせ、合計十一基の窯跡となりました。十一基の古代瓦窯跡が確認できた遺跡は、県内で松山瓦窯跡だけです。  
今回は、前回発掘された七号窯跡付近から北側斜面を発掘。七号に隣接する八号窯、それより北側に九・十・十一号窯跡が確認できました。ここで、それぞれの窯跡の位置から、一号から五号をA支群、六・七・八号をB支群、九・十・十一号をC支群と分別しました。
- 2 希少な瓦七〇八A型式が出土**  
今回調査した窯跡から、瓦を焼いた跡を示す灰原を確認。灰原には不良製品が多数に廃棄されており、八号窯跡の灰原からは、国分寺創建期に使用されたと思われる均整唐草文字瓦（七二六〇型式）が、また、C支群窯跡の灰原からは、窯跡としては初出土となる七〇八A型式が一点発見されました。七〇八A型式の瓦は、現在までに国分僧寺跡からのみ、しかも三点しか確認されてお

▲焼台に使われた女瓦が並ぶ（未使用だった11号窯跡）

平成十三年からの発掘調査により、千二百年の時を経た今、松山瓦窯跡（中志筑）が古代の瓦づくりの様子を物語るてくれました。調査は平成十九年三月に区切りを迎え、同月に、現地説明会・記念講演会を開催。県内外からおよそ二百人が参加し瓦や窯跡を間近で見学しました。松山瓦窯跡は、この発掘調査の成果により、歴史的価値が認められ、文化庁の国指定文化財候補になっています。

### 松山瓦窯跡とは

かすみがうら市志筑地区から土浦市東城寺地区にかけての筑波山東麓地域は、良好な粘土質土層があり、茨城県を代表する古墳時代（約千四百年前）から平安時代（約千百年前）の須恵器・瓦の生産地です。松山瓦窯跡もその窯業地帯の一つで、北側にある一大消費地であった常陸国府（石岡市）へ、多くの生産品が供給されていきました。

### これまでの発掘調査の成果

中志筑の農道整備事業に伴い、平成十三、十四年に行なわれた調査で、窯跡七基（一〜七号窯）を確認し、その内五基（一〜五号窯）を調査、八世紀中頃から後半へかけて

らず、さらにそれを生産した窯跡が判明した成果は大きいといえます。七〇八A型式鏡瓦の年代は、市文化財保護審議委員で国分寺瓦研究者でもある黒澤彰哉氏によると、国分寺II期の八世紀末に相当すると判断されました。つまり、C支群窯跡は、国分寺を修復する際に生産を担った窯跡である可能性があります。

### 3 県下初確認 半地下式有段登窯

C支群の年代が違う理由として、C支群は前回の調査で確認されたA・B支群の地下式有段登窯とは違う、半地下式有段登窯という構造で築造されていました。半地下式有段登窯はこの松山瓦窯跡が県内初の確認となり、この点からも松山瓦窯跡の歴史的価値の高さがうかがえます。

### 埋蔵文化財調査作業員募集!

- 1 調査補助員 発掘調査、測量作業、遺物の収納作業など〔日給 6,300 円〕
- 2 調査作業員 発掘調査、遺物の収納作業など〔日給 5,600 円〕
- 3 整理作業員 遺物洗浄、注記、出土遺物の接合など〔日給 5,600 円〕

【条件】  
市内在住の15歳以上（中学生は含まず）の男女で健康な方。①については経験のある方限定。②③については経験のない方も可。経験のない方は研修講座2回と実地研修5回程度を受講していただいた後登録となります。

【応募方法】  
6月29日（金）までに生涯学習課へ電話で連絡ください。

【勤務日】  
開発、道路建設計画などにより埋蔵文化財の調査の必要性が生じたとき。

【申込・連絡先】  
かすみがうら市教育委員会生涯学習課文化振興係 内線 3022・3023



現在、窯跡は埋め戻されています

### 用語解説

常陸国分寺は、七四一年聖武天皇の勅願により各国に設けられた官寺で、僧寺と尼寺で構成される。常陸国分寺は、僧寺が石岡市府中に、尼寺が石岡市若松に所在。

**地下式登窯**  
台地斜面にトンネル状の横穴を掘って窯にしたもの。

**半地下式登窯**  
台地斜面を掘り下げ、後からスサ入り粘土でアーチ状の天井をつくらせて窯にしたもの。

